

家 庭

1 全般的事項

問1 家庭科において、小・中学校の学習内容との関連性はどのようになっているか。

今回の改訂においては、小・中・高等学校の目標や内容が体系的になるよう改善が図られた。特に小・中学校は表1のように同じ内容で構成されている。指導に当たっては学習の連続性を意識し、各目標や重要となる視点（小学校は「自分の成長を理解する」、中学校は「これからの生活を展望する」、高等学校は「生涯を見通す」）を明確にとらえ、単なる繰り返しに終わらない、発達段階を踏まえた指導が一層必要となる。

表1 小・中・高等学校の家庭・家庭分野の目標と内容

小学校「家庭」	中学校「技術・家庭（家庭分野）」	高等学校「家庭」
衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を身に付けるとともに、家庭生活を大切にすることを旨とし、家族の一員として生活をよりよくしようとすると実践的な態度を育てる。	衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、家庭の機能について理解を深め、これからの生活を展望して、課題をもって生活をよりよくしようとすると能力と態度を育てる。	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかかわりについて理解させるとともに、生活に必要な知識と技術を習得させ、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育てる。
小学校	中学校	高等学校 【生活デザイン】（標準4単位）を例に記述
A 家庭生活と家族 (1) 自分の成長と家族 (2) 家庭生活と仕事 (3) 家族や近隣の人々とのかかわり	A 家族・家庭と子どもの成長 (1) 自分の成長と家族 (2) 家庭と家族関係 (3) 幼児の生活と家族	(1) 人の一生と家族・家庭及び福祉 ア 青年期の自立と家族・家庭 (ア) 青年期の自立 (イ) 生活と意思決定 イ 子どもの発達と保育 (ア) 子どもの生活と家族・家庭 (イ) 子どもの育つ環境 ウ 高齢期の生活 (ア) 高齢期の特徴と生活 (イ) 高齢社会を生きる エ 共生社会と福祉 (ア) 家族・家庭と社会的支援 (イ) 共生とコミュニティ オ 子どもとの触れ合い カ 高齢者とのコミュニケーション
D 身近な消費生活と環境 (1) 物や金銭の使い方と買物 (2) 環境に配慮した生活の工夫	D 身近な消費生活と環境 (1) 家庭生活と消費 (2) 家庭生活と環境	(2) 消費や環境に配慮したライフスタイルの確立 ア 消費生活と生涯を見通した経済の計画 (ア) 消費者問題の現状と課題 (イ) 消費者の権利と自立支援 (ウ) 消費行動と意思決定 (エ) 生涯の経済計画とリスク管理 イ ライフスタイルと環境 (ア) 消費生活と環境とのかかわり (イ) 環境負荷の少ない生活への取組 ウ 生涯の生活設計
B 日常の食事と調理の基礎 (1) 食事の役割 (2) 栄養を考えた食事 (3) 調理の基礎	B 食生活と自立 (1) 中学生の食生活と栄養 (2) 日常食の献立と食品の選び方 (3) 日常食の調理と地域の食文化	(3) 食生活の設計と創造 ア 家族の健康と食事 (ア) 食事の意義と食生活の課題 (イ) 家族の栄養と食事 (ウ) 家族の食事と献立 イ おいしさの科学と調理 (ア) おいしさの要素 (イ) 食品の調理とおいしさの科学 (ウ) 食品の加工とおいしさの科学 ウ 食生活と環境 (ア) 食生活の安全と衛生 (イ) 環境に配慮した食生活 エ 食生活のデザインと実践 (ア) 地域と食文化 (イ) 世界の食文化 (ウ) 食生活の実践
C 快適な衣服と住まい (1) 衣服の着用と手入れ (2) 快適な住まい方 (3) 生活に役立つ物の製作	C 衣生活・住生活と自立 (1) 衣服の選択と手入れ (2) 住居の機能と住まい方 (3) 衣生活、住生活などの生活の工夫	(4) 衣生活の設計と創造 ア 装いの科学と表現 (ア) 被服の機能と着心地 (イ) 装いと表現 イ 被服の構成と製作 (ア) 被服の構成と身体 (イ) 被服の製作 ウ 衣生活の管理と環境 (ア) 被服の選択 (イ) 被服の管理と環境に配慮した衣生活 エ 衣生活のデザインと実践
※高等学校の学習内容に合わせ、A～Dの順を入れ替えて記載した。		
(5) 住生活の設計と創造 ア 家族の生活と住居 (ア) 住居の機能 (イ) 家族のライフステージと住居 イ 快適さの科学と住空間の設計 (ア) 快適な住空間の設計 (イ) インテリア計画 ウ 住居と住環境 (ア) 住環境と地域 (イ) 環境に配慮した住生活 エ 住生活のデザインと実践		
(6) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動 ※下線を付した項目については、生徒の興味・関心に応じて、適宜選択して履修させる。		

問2 共通教科「家庭」の目標の「人間の健全な発達」が「人間の生涯にわたる発達」に改善され、各科目の内容に「生涯の生活設計」が加えられた意図は何か。

現行の教科目標における「健全」は、本来、よりよい方向性を示すための「時間軸」としての意味で用いられているが、ともすると「健全」という語の本来の意味が強調され、目標で示している趣旨が十分に伝わっているとは言えない状況が見受けられ、その結果、人の一生という時間軸と、生活資源や生活行動などを関連付け、人の生活の営みを総合的にとらえるといった視点に基づく指導が、必ずしも十分ではなかった。

今回の改訂においては、生涯の見通しをもってよりよい生活を送るための能力と実践的な態度を育成するため、教科の目標の「人間の健全な発達」が「人間の生涯にわたる発達」と改善された。「人間の生涯にわたる発達」とは、人間が生まれてから死ぬまでの間、身体的、精神的に変化し続け、各ライフステージの課題を達成しつつ発達するという生涯発達の考え方を重視することを示している。このことは、人の一生を「時間軸」としてとらえるとともに、生活の営みに必要な金銭、生活時間、人間関係などの生活資源や、衣食住、保育、消費などの生活活動にかかわる事柄を「空間軸」としてとらえ、各ライフステージの課題と関連付けて理解させることが重要であることを示したものである。

さらに、生涯を見通した経済の計画を立てるため、生活と経済のつながりや主体的な資金管理の在り方、リスク管理など不測の事態への対応などにかかわる内容を重視し、すべての科目に「生涯の生活設計」の内容を加えた。このうち「家庭総合」「生活デザイン」における「生涯の生活設計」については、学習の中で段階的に扱ったり、学習のまとめとして扱ったりするなどの工夫をすることが必要である。

問3 食に関する指導については、家庭科の特質を生かし、どのようなことに配慮すべきか。

高等学校学習指導要領総則第1章第1款の3において、「学校における体育・健康に関する指導は、生徒の発達の段階を考慮して、学校の教育活動全体を通して適切に行うもの」とされ、「特に、学校における食育の推進（中略）は、保健体育科はもとより、家庭科、特別活動などにおいてもそれぞれの特質に応じて適切に行うよう努めること」とされている。

家庭科においては、生活全体の中での食生活の営みという視点を特徴としていることから、生徒の日常生活との関連を図り、より実践的に指導することが重要である。

高等学校における食に関する指導は、義務教育段階までの学習内容を十分に把握した上で、生涯を見通した食生活を営む力を育むために、栄養、食品、調理及び食品衛生などについて科学的に理解させ、食生活の文化に関心を持たせるとともに、必要な知識と技術を習得させ、安全と環境に配慮し主体的に食生活を営む力を身に付けさせることが重要である。指導に当たっては、題材を工夫し、調理実習を通して調理に関する知識と技術を身

に付けさせ、実生活への活用につなげるようにする。

【食に関する指導の目標】

- 食事の重要性、食事の喜び、楽しさを理解する。(食事の重要性)
- 心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事のとり方を理解し、自ら管理していく能力を身に付ける。(心身の健康)
- 正しい知識・情報に基づいて、食物の品質及び安全性等について自ら判断できる能力を身に付ける。(食品を選択する能力)
- 食物を大事にし、食物の生産等にかかわる人々へ感謝する心をもつ。(感謝の心)
- 食事のマナーや食事を通じた人間関係形成能力を身に付ける。(社会性)
- 各地域の産物、食文化や食にかかわる歴史等を理解し、尊重する心をもつ。(食文化)

(文部科学省「食に関する指導の手引」平成22年3月)

問4 消費者教育及び環境教育については、どのような点が改善されたか。

今回の改訂では、消費者教育と環境教育を推進するため、消費者としての適切な意思決定に基づいて責任をもって行動できる力を育成することや、生活と経済にかかわる内容、持続可能な社会の構築を目指したライフスタイルを確立するために必要な内容の充実が図られている。特に、「家庭総合」では、衣食住生活と環境とのかかわりを科学的に理解させ、消費の在り方及び資源や環境に配慮したライフスタイルを確立するために必要な内容の充実が図られた。

問5 家庭科の特質を生かし、言語活動の充実をどのように図るか。

言語活動の充実を図るために、家庭科においては次のような学習活動が示されている。

- (1) 知的活動に関することとして、合理的な判断力や創造的思考力、問題解決能力の育成を図るため、衣食住などの生活における様々な事象や科学性を説明する活動や判断が必要な場面を設けて理由や根拠を論述したり、正解が一つに絞れない課題を考える際、最適な解決方法を探究したりする活動を重視すること。
- (2) 他者とのコミュニケーションに関することとして、人が他者との会話を通して考えを明確にし、自己を表現し、他者を理解し、他者と意見を共有し、互いの考えを深めることを通して協同的な関係を築くような活動を重視すること。
- (3) 感性や情緒に関することとして、衣食住などの生活における様々な事象やものづくりなどに関する実践的・体験的な活動を一層重視し、その過程で様々な語彙の意味を実感を伴って理解させるような学習を重視すること。

2 各科目

問1 共通教科「家庭」の3科目の特徴は何か。特に、今回改編された「生活デザイン」はどのような科目か。

「生活デザイン」は、現行の「生活技術」が改編されたものであり、実験・実習等の体験学習を重視し、衣食住の生活文化に関心を持たせるとともに、生涯を通して健康や環境

に配慮した生活を主体的に営むことができるように内容が構成されている。科目「生活デザイン」のデザインには、人がよりよい価値に向かって行動するために計画し、考えるという意味を持たせてあり、生活の価値や質を高め、豊かな生活を楽しみ味わいつくる実践力を育成することを重視している。また、生徒の興味・関心に応じて適宜選択して履修できる項目がある点は他の2科目では見られず、地域や学校の実態を生かした特色ある授業が展開でき、学科を問わず履修が可能な科目となっている。(内容はP71の表1に示す)

「家庭基礎」は、現行の「家庭基礎」に比べ、人の一生を見通しながら自立して生活する能力と、異なる世代とかかわり共に生きる力を育てることを重視して改善が図られた。特に、家族・家庭及び福祉、衣食住、消費にかかわる基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、生涯を見通して生活を設計する力を身に付けさせるようにしている。

「家庭総合」は、現行の「家庭総合」に比べ、家庭や生活の営みを人の一生とのかかわりの中で総合的にとらえることが重視されている。また、生涯を見通し生活を設計し創造する力、様々な人とつながり共に生きる力、生涯を通して健康で文化的な生活をつくり営む実践力、生活課題を見つけ自ら解決する力など、この科目で身に付けさせる能力を明確にするための構成となっている。特に、衣食住生活と環境とのかかわりを科学的に理解させ、消費の在り方及び資源や環境に配慮したライフスタイルを確立するための内容が充実された。

【家庭基礎】(標準2単位)

- (1) 人の一生と家族・家庭及び福祉
 - ア 青年期の自立と家族・家庭
 - (ア) 青年期の自立 (イ) 生活と意思決定
 - イ 子どもの発達と保育
 - (ア) 子どもの生活と家族・家庭 (イ) 子どもの育つ環境
 - ウ 高齢期の生活
 - (ア) 高齢期の特徴と生活 (イ) 高齢社会を生きる
 - エ 共生社会と福祉
 - (ア) 家族・家庭と社会的支援
 - (イ) 共生とコミュニティ
- (2) 生活の自立及び消費と環境
 - ア 食事と健康
 - (ア) 栄養と食事 (イ) 食品と調理
 - イ 被服管理と着装
 - (ア) 被服の機能と着装 (イ) 被服の管理と計画
 - ウ 住居と住環境
 - (ア) 住居と家族の生活
 - (イ) 安全で環境に配慮した住生活
 - エ 消費生活と生涯を見通した経済の計画
 - (ア) 消費者問題と消費者の権利
 - (イ) 生涯の経済計画とリスク管理
 - オ ライフスタイルと環境
 - (ア) 消費生活と環境とのかかわり
 - (イ) 環境負荷の少ない生活への取組
 - カ 生涯の生活設計
- (3) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動

【家庭総合】(標準4単位)

- (1) 人の一生と家族・家庭
 - ア 人の一生と青年期の自立
 - (ア) 人の一生と発達課題 (イ) 青年期の課題
 - (ウ) 生活の自立を目指す上での意志決定
 - イ 家族・家庭と社会
 - (ア) 家庭の機能と家族関係 (イ) 家庭生活と社会
- (2) 子どもや高齢者とかかわりと福祉
 - ア 子どもと発達と保育・福祉
 - (ア) 子どもとかかわる (イ) 子どもの発達と生活
 - (ウ) 親の役割と子育て支援 (エ) 子どもの権利と福祉
 - イ 高齢者の生活と福祉
 - (ア) 高齢者とかかわる (イ) 高齢者の生活と課題
 - (ウ) 人間の尊厳とケア (エ) 高齢社会の現状と社会福祉
 - ウ 共生社会における家庭や地域
- (3) 生活における経済の計画と消費
 - ア 生活における経済の計画
 - (ア) 家計と経済 (イ) 資金管理とリスク
 - (ウ) キャッシュレス社会とその課題
 - イ 消費行動と意思決定
 - (ア) 消費者の意思決定とその重要性
 - (イ) 生活情報の収集・選択と活用
 - ウ 消費者の権利と責任
 - (ア) 社会の変化と消費生活 (イ) 消費者問題の現状と課題
 - (ウ) 消費者の権利と自立支援
- (4) 生活の科学と環境
 - ア 食生活の科学と文化
 - (ア) 人の一生と食事 (イ) 食生活の自立と調理
 - (ウ) 食生活の文化 (エ) 食生活と環境
 - イ 衣生活の科学と文化
 - (ア) 人の一生と被服 (イ) 衣生活の自立と管理
 - (ウ) 衣生活の文化と製作 (エ) 衣生活と環境
 - ウ 住生活の科学と文化
 - (ア) 人の一生と住居 (イ) 住生活の計画と選択
 - (ウ) 住生活の文化 (エ) 住生活と環境
 - エ 持続可能な社会を目指したライフスタイルの確立
 - (ア) 持続可能な消費
 - (イ) 環境保全に向けたライフスタイルの確立
- (5) 生涯の生活設計
 - ア 生活資源とその活用
 - イ ライフスタイルと生活設計
- (6) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動